

■今月のポイント ~単収・食味UPを目指して~

- ① **水管理**: 冷害を回避するため、7月中旬から深水管理ができる準備をしましょう。
- ② **追肥**: 生育ステージと幼穂形成期の葉色を見極め、適期に適量を施用しましょう。
- ③ **病害対策**: 穂もち予防剤は適期散布を実施しましょう。
- ④ **カメムシ対策**: 出穂10日~15日前(7月21日頃)までに草刈りを行いましょう。

展示圃の生育状況 (ひとめぼれ)衣川内展示圃場平均 (茎数は5本移植1株当りの本数)

	6月25日調査			7月5日調査		
	草丈(cm)	茎数(本)	葉数(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉数(葉)
	50.1	30.3	9.0	58.6	32.5	9.9
平年値	41.1	27.4	8.8	53.5	30.2	9.9
平年対比(%)	121.7	110.4	101.8	109.6	107.4	100.0

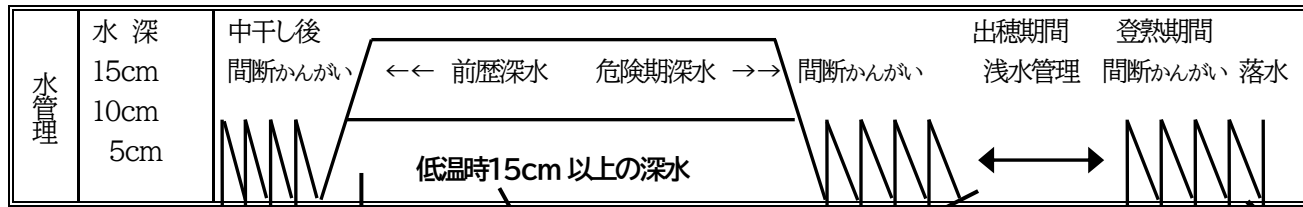
生育状況

7月5日の調査で展示圃場ではえい花分化期となっていました。生育に応じた適正な管理が非常に重要な時期に差し掛かります。圃場については中干し、溝切りを終えた圃場も多く、今後は天候と防除に合わせた水管理が必要になってきます。いもち病、紋枯れ病の蔓延にも注意して圃場を観察しましょう。

* 平年の梅雨入り 6/15 頃、平年の梅雨明け 7/28 頃です。(昨年梅雨入り 6/9、梅雨明け 7/22)

今後のスケジュール ポイント①: 冷害を回避するため、7月中旬から深水管理ができる準備をしましょう。

17℃以下の低温が予想される場合は、深水管理を実施し稲体を保護してください。



生育時期	幼穂形成期迄	幼穂形成期	減数分裂始期~減数分裂終期	出穂期	穂前期	登熟期
水管理	間断かんがいする。	4~6cmの水深とする。 幼穂の伸長に合わせて徐々に水深を深くする。 低温が予想される場合は10cm以上の深水にする。	気温17℃以下の低温が予想される場合は15cm以上の深水にする。 全く低温の心配がない場合は間断かんがいとする。	3~5cm程度の浅水管理とし、落水状態を避ける。 出穂開花期は、稲が大量の水を必要とするので受粉障害が発生しないように田面を露出しない	気温が日中30℃以上(夜間が23℃以上)の高温時は、 ・夜間のかけ流し ・夜間間断かんがい(夜:入水 朝:自然落水)により、乳白粒の発生を防止しましょう。	落水時期まで間断かんがいとする。(徐々に入水期間を短くし、田面が湿っている程度とする。)
穂もち	圃場巡回	予防剤散布	圃場巡回(いもちが見られる場合は、直ちに茎葉散布)			
カメムシ	畦畔等の草刈(出穂10~15日前まで)			薬剤散布 穂前1週間後		

※穂前期~登熟初期の高温は品質低下(乳白粒等の発生)の要因となるので、特に水管理には注意しましょう!

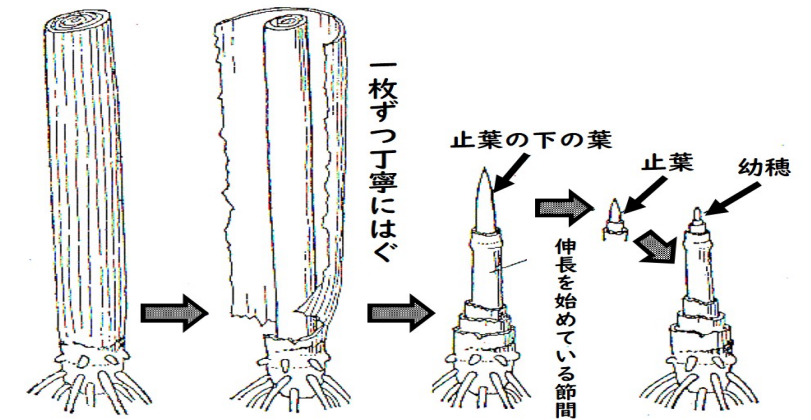
今後の生育予想(7月5日現在) 幼穂形成期・減数分裂期の確認をしながら管理にあたりましょう。

田植時期	幼穂形成期	減数分裂期	出穂
5月10日	7月10日	7月21日	8月1日
5月15日	7月12日	7月23日	8月3日
5月20日	7月15日	7月26日	8月5日

生育の見分け方

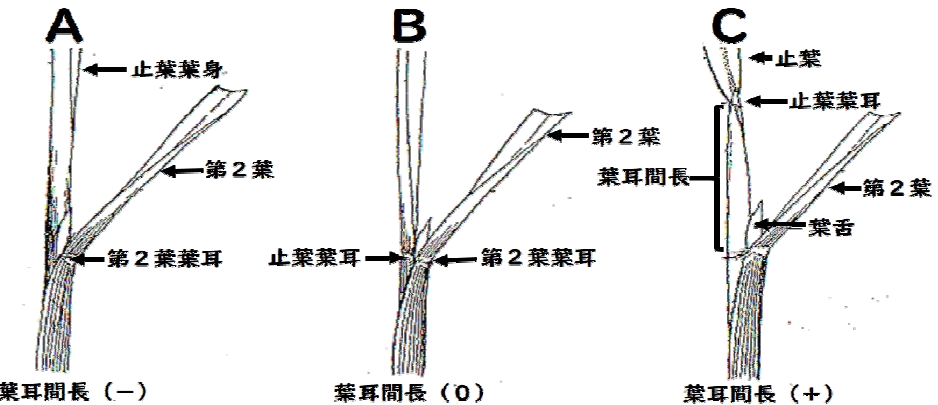
■ 幼穂による見分け方 ■

生育経過	出穂前日数	幼穂長
えい花分化期	27~28日前	1mm
幼穂形成期	23日前	2mm
減数分裂期	16~7日前	50mm



■ 葉耳間長による減数分裂期の見分け方 ■

	生育経過	出穂前日数	葉耳間長
A	減数分裂 始 期	16 日前	-10cm
B	減数分裂 最盛期	11 日前	± 0cm
C	減数分裂 終 期	7 日前	+10cm



追肥



ポイント②: 幼穂形成期に葉色を確認し、適量を施用しましょう。

- ① 圃場の生育状況(葉色・幼穂長2mm~)を確認してから追肥(窒素成分で1~2kg/10a程度を上限)をしましょう。
- ② 減数分裂期でも葉色がさめない場合は追肥を行わないようにしましょう。
- ③ 楽々ライ夢くん20一発などの緩効性肥料(セラコート肥料)を使用した場合は追肥は行わないようにしましょう。
- ④ 出穂期以降の追肥(8月に入ってから)は食味を低下させる原因となるので、絶対に行わないようにしましょう。
- ⑤ 追肥は乳白粒発生を抑える重要な管理方法となります。夏の暑さを乗り切るためにも、適正な施用を行いましょう。

1. 追肥の施用時期と施用量(成分量)の目安(ひとめぼれ) (10a当り)

カラスケール基準値	幼穂形成期(出穂25日前)	減数分裂期(出穂15日前)	追肥の考え方
4.0未満	窒素成分量 1.0kg~2.0kg		幼穂形成期1.0kg、減数分裂期に1.0kgと2回に分けて追肥を検討(窒素成分量2.0kgを上限)。
4.0~5.0	窒素成分量 1.0kg~2.0kg	-	幼穂形成期を重点に追肥を実施する。
5.0を超える場合	-	窒素成分量 1.0kg	※葉色がさめるのを待ち、減数分裂期までに追肥を実施する。

※ 葉色だけで判断せず、草丈、茎数を加味して総合的に判断しましょう。判断が難しい場合はJAにご相談ください。



カラスケールを活用し、適正な追肥を行いましょう！
資材センターで取り扱っています。

2. 追肥肥料現物量の目安 (10a 当り)

栽培	肥料名	窒素成分で 1.0kgの場合	窒素成分で 1.5kgの場合	窒素成分で 2.0kgの場合
特別栽培米	ふるさと有機入り水稲追肥	10kg	15kg	20kg
ふるさと純情米	NKC17号	6kg	9kg	12kg

※特別栽培米「ふるさと有機入り水稲追肥」は現物で上限が20kg/10aとなります。超えないようご注意ください。

例)すでに現物で10kg/10a追肥した場合は、今回は残り10kg/10aの範囲での追肥になります。

肥料を間違えたり、使用量を超えると特別栽培米から外れますので、ご注意ください。

病害対策 ポイント③:穂いもち予防剤は、適期散布を実施しましょう。



1. 穂いもち予防剤

区分	薬剤名	防除時期	散布量/10a	注意点
特別栽培米	ゴウケツ 1キロ粒剤	出穂25~15日前	水面施用 1kg	【ゴウケツ・フジワン共通】 ・1キロ粒剤及び粒剤は3cm程度の湛水状態で散布。 ・パックは10cm程度の湛水状態で投げ入れる。 ・散布後7日間は止水とする。
	ゴウケツ 粒剤		水面施用 3~4kg	
	ゴウケツ パック		水面施用 45g×小包装10パック	
ふるさと純情米	フジワン 1キロ粒剤	出穂20~10日前	水面施用 1~1.5kg	
	フジワン 粒剤		水面施用 3~5kg	
	フジワン パック		水面施用 75g×小包装10~15パック	

※特別栽培米は「ゴウケツ」のみ使用可能となります。また、ふるさと純情米については、上記薬剤以外の使用も可能ですが、春肥料施肥設計指導会資料の「令和5年用JA岩手ふるさと農業指定品目一覧」をご確認の上、使用願います。

※無人ヘリ防除は「ゴウケツ」の散布となります。

2. 葉いもち茎葉散布(治療剤)

※葉色の濃い部分、例年発生する水田、転作から復元した水田は特に注意して観察してください。

なお、いもち病の発生を確認した場合は、直ちに治療剤を茎葉散布しましょう。

※特別栽培米で、いもち病の茎葉散布剤を使用した場合、ふるさと純情米になりますが防除を最優先にしましょう。

※農薬ラベルを確認し(使用時期・使用回数)、同一成分を含む薬剤の連用はしないようにしましょう。

薬剤名	防除のタイミング	使用時期	本剤の使用回数	散布量/10a
ダブルカット粉剤3DL ダブルカットフロアブル	発生を確認したら散布。 状況に応じて2回目は7日~10日後に散布 ※但し、同じ薬剤の連用は避ける	穂揃い期まで	2回以内	*粉剤 3~4kg *フロアブル 1000倍液 60~150ℓ
ブラシン粉剤DL ブラシンフロアブル		収穫7日前まで	2回以内	

3. 紋枯れ病対策

薬剤名	防除のタイミング	使用時期	本剤の使用回数	散布量/10a
バリダシン粉剤DL	出穂直前~出穂期	収穫14日前まで	5回以内	3~4kg 散布
バリダシン液剤	出穂直前~出穂期	収穫14日前まで	5回以内	1000倍液を60~150ℓ

※特別栽培米でも使用可能です。

※水口側、水尻側で25株ずつ計50株観察し、発病株数10株以上あれば防除を行いましょう。

カメムシ対策 ポイント④:出穂10日~15日前(7月21日頃)までに草刈りを行いましょう。

耕種的防除

※畦畔の草刈りが基本です。水田にカメムシが寄りにくい環境作りが大切です!!

※カメムシはイタリアンライグラス、ノビエ、シズイ・ホタルイ等イネ科植物を好み穂に産卵します。



特に出穂10日~15日前(7月21日頃)までに、カメムシの発生源となるイネ科植物を中心とした雑草等(転作牧草・畦畔・農道含)を、地域一斉に刈り取ることが効果的です。

※ 出穂してからの草刈りは、カメムシを水田内に追い込むことになるので避けましょう。

稲ひとつでも顔を出したら、その茎を「出穂した」と判断します。



~令和6年産GAPチェックシートの取り組み(7月編)~

令和5年産のGAPチェックシート集計結果からチェック率の低い項目を毎月紹介していきます。令和6年産ではチェック欄に○がつくよう取り組んでいきましょう!

「(推奨項目)作業中に行ける場所にトイレがある」(65.6%)

「(必須項目)包装用の資材は、汚染や異物混入を防げる状態で保管されている」(68.5%)

→必須項目は特に意識して取り組むようにしましょう。

■水稲の栽培、農薬使用等に関するお問い合わせは...

平日 午前8:30~午後5:00

衣川地域センター営農ダイヤル	営農アドバイザー携帯電話
52-3204	080-5559-8955(小野寺 良)
衣川地域センター営農経済課	080-6027-6137(伊藤 俊義)
52-3212	090-4478-9918(高橋 明子)

■生産資材・生活資材のご注文・配達...

拠点配送センター 0120-516-911(フリーダイヤル)

■生産資材等の直取り・窓口供給...

衣川資材センター 52-3214 営業時間:午前8:30~午後5:00

休日対応 7~10月 土曜日 午前8:30~正午 日曜・祝祭日は休業します

LINE 公式アカウント

友だち募集中

@703kysml
うれしい情報をLINEでお届け!

LINEにて営農情報を発信中です!
上記QRコードからお友達登録をお願いします。